

創刊によせて

大学院重点化にともなう改組によって京都大学教育学部の研究と教育の体制に変更があり、1998年4月から臨床教育学講座は大講座として再出発することになりました。これを機会にして、教育学研究の一層の発展に幾分の貢献をしたいとの思いをこめて新講座の研究誌『臨床教育人間学』を創刊する運びとなりました。講座関係者を中心にして、教育研究への新しい手掛かりを探索する知的な冒険が試みられ、たとえ未完成であってもユニークな論点が提起される研究誌として成長することを期待しています。

研究成果を発表する機会が増える傾向にある今日、小さな講座単位であえてこのような企画をしたのは、本講座における研究活動の一端を公開して教育各界との研究交流の場所を開きたい、そしてそこから優れた研究者と教育者が育って欲しい、という大きな願いをもっているからです。新しい試みには不安と期待が伴いますが、教育と教育学が大きな転換を迫られている折から、創刊の機運が高まったと判断して動き出しました。多くの教育関係者のご指導とご支援を切望しております。

『臨床教育人間学』という誌名については、この大講座が従前の2つの小講座「臨床教育学」と「教育人間学」とを合併して誕生したという経緯を考え、これら2つの講座が築いて来た学統を合流してさらに発展させたいという希望を託して名付けました。今回の改組によって2つの小講座は役割を終えた訳です。「教育人間学」講座は、1963年4月に開設され、下程勇吉、上田閑照、蜂屋慶、藤本浩之輔、和田修二そして現職の矢野智司へと引き継がれ、35年間の歴史を刻んできました。また「臨床教育学」講座は、1988年4月に創設され、河合隼雄と現職の皇紀夫とが担当してきました（1999年度より皆藤章が着任予定）。両講座とも、教育学の新しい研究分野の開拓を使命として、それぞれ我が国で最初に命名された講座でした。これらの講座に託された課題を受け継ぐという意味を含ませて、『臨床教育人間学』と名付けることにしました。

1999年3月

皇 紀 夫